
親孝行な殺人

樽リンメイ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

親孝行な殺人

【Nコード】

N4424H

【作者名】

樽リンメイ

【あらすじ】

親孝行で有名な息子が両親を殺した。その動機は？

「世の中には色々な殺人事件がある。でも、これほど珍しい事件はそうないのではないかな」

と、彼はガムをクチャクチャと噛みながら言った。先日禁煙を始めたため、口が寂しいらしい。

「どんな事件ですか？」

私は思わず身を乗り出した。

「三十半ばの男がいてね。それが、両親を殺したんだ」

「どんな方法ですか？」

身の毛もよだつような、残虐な殺人だったのだろうか？ それとも、なにか特殊なトリックが使われたのだろうか？

「紐で首を絞められた」

「それで？」

「それで、自首した」

「それで？」

「それだけだ」

「は？」

私の目は丸くなった。これのどこが、珍しい事件なのだろう？

「珍しいのは、動機だ」

私の気持ちを察したのか、彼は続ける。

「その男は、親孝行で評判だった。常に自分のことより親のことを優先して、いまだき珍しい若者として評判だったんだ」

「……しかし、心の奥でくすぶっていた、両親への不満がついに爆発し……」

「なんて、ありふれた理由じゃないよ」

「じゃあ、遺産の相続問題ですか？」

親を殺す理由で、一番多いのはこれだろう。

「そんな財産はまったくないよ。それに、そんなありふれた理由じ

やない」

「じゃあ、両親は寝たきりで、介護の疲れから……」

「それも違う。くだいようだけど、そんなありふれた理由じゃない」

「じゃあ、実は自分がほんとうの子どもでないということがわかって……」

「実の親子さ。なんとも言っけど、そんな」

「ありふれた理由じゃない」

私は、彼のことばを受け継いだ。しかし、それ以外にどんな理由があるというのだろうか？

結婚を反対された。愛情高まり、憎しみに。強盗と間違えて……。

どれもありうる。しかし、どれもありふれている。

「答えを言おうか？」

私は首を縦にふった。悔しいが仕方がない。

「彼はね、病気だったんだ」

「は？」

心の病だろうか？ しかし、そのどこが珍しい理由なのだ。

「心じゃない。体さ。相当悪くて、あと一年もつかどうかだったらしい」

「それで？」

「そこまで言えば、わかるだろ？」

私は首をひねった。それがどうして、殺人の理由になるのだ？

「彼は親孝行だった。親孝行するのが生きがいだった。逆にいえば、親不孝な行為をすることを極端に嫌っていた。いや、恐れていたと
いっていい」

「親不孝……」

ふと、遠い昔の記憶がよみがえった。子どものときのものだ。
よく、母に言われた。

『できがわるくてもいい。元気でいてさえいてくれれば』

「そういうことか」

「やっとわかったようだね」

子どもがおかす最大の親不孝。それを回避するには、どうしてもその殺人は必要だったのだ。
「親より先に死ぬ。それ以上の親不孝は、この世にはないからね」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4424h/>

親孝行な殺人

2010年10月10日07時35分発行